

# 上田市教育委員会 8 月定例会会議録

## 1 日 時

平成 23 年 8 月 23 日 (火)

午後 2 時 28 分から午後 3 時 47 分まで

## 2 場 所

上田市教育委員会 (やぐら下庁舎) 2 階会議室

## 3 出席者

### 委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	城下 敦子
委 員	小市 正輝
教 育 長	小山 壽一

### 説 明 員

小市教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、浅野生涯学習課長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、荒井体育施設係長、下村丸子地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、高野丸子学校給食センター所長、足立中央公民館長、林博物館長、坪田上野が丘公民館長

・ あいさつ

< 協議事項 >

( 1 ) 平成 2 2 年度上田市教育行政に係る事務の点検及び評価

資料 1 により小野塚教育総務課長説明

金子委員

評価は、点数化された結果、A B C D E といったランク付けになるのか。

城下委員

あわせて、評価 A 及び B の定義が昨年と変わっているが、その理由は何か。昨年の A の定義は「優れた取り組みが多く充分成果が上がっている」だったが、今年は「成果が上がっている」となった。

小野塚教育総務課長

評価の着眼点を評価項目 4 つに対してそれぞれ 2 つ、計 8 つ設けた。1 つの着眼点に 1 ~ 4 まで点数化して合計 3 2 点。それを 1 0 0 点満点に計算し直して、A 8 6 点以上、B 7 1 ~ 8 5 点、C 5 6 ~ 7 0 点、D 4 1 ~ 5 5 点、E 4 0 点以下として評価している。評価の対象となる事業は、目標管理制度の重点目標に取り上げた事業であるため、評価項目の必要性、有効性は必然的に高くなる傾向がある。

また、昨年と総合評価の文言を変え「優れた取り組み」という部分を取ったが、当然優れた取り組みがなければ成果が上がらないため、わかりやすく単純に成果が上がったかどうかの表現にした。ランク付けの基準は同じである。

西田委員長

評価の方法は全市共通のものか。あるいは教育委員会だけのものか。

小野塚教育総務課長

上田市が行っている行政評価の分析方法を参考に行っている。教育行政に係る事務の点検及び評価については、その方法に定めはなく、各自治体でやり方が異なっている。上田市教育委員会は、このやり方で継続してきた。

小市委員

例えば「学ぶ意欲を育む授業づくり」の事業は、3 回の懇話会の中で取り組み状況を示して評価するのか。それとも、学校現場を実際に見て評価するのか。どういうスタイルか。

小野塚教育総務課長

事前に点数化した評価表と補足資料を懇話会の委員に送り、資料に基づいて評価していただいた。現場での確認は行っていない。

金子委員

「委員からの意見」に対して「意見に対する考え方」が記述されているが、意見に対する考え方を書くのは誰か。

小野塚教育総務課長

それぞれの事業を担当する課が書いている。ここでは、学校教育課である。

金子委員

どのページも委員からの意見に答える形になっているが、3ページの「子どもたちが情報機器を活用する機会を増やしていく必要がある」に対する答えが見当たらない。教育現場の指導者側がどう情報機器を活用するかに加えて、実際に子どもたちが活用するためにどうするかといった考え方があると良い。

中村学校教育課長

委員の意見は、「子どもたちにもう少し情報機器を使う機会を増やした方がいい」というよりも、「情報機器利用を指導する立場の者への支援を行い、広げていきたい」というものであったため、このことに対する答えとなっている。

西田委員長

これは、内部での自己評価ということか。総合評価は誰がするのか。

小野塚教育総務課長

担当課が責任を持って行う。

西田委員長

自己評価の内容は、公開されているのか。評価の内容や成果について、職員には周知されているか。

小野塚教育総務課長

公開されており、課内の職員にも周知されている。

城下委員

昨年は見づらいといったが、今年は教育支援プランに基づいて重点目標があり、そこか

ら評価・報告へと流れが見えるので分かりやすい。23年度と24年度の重点目標はどうなっているか。

小野塚教育総務課長

今年の重点目標は4月に報告してあるが、目標の継続性ということか。

城下委員

今の段階だと、重点目標がつけられた後に評価シートを作っているが、本来なら年度当初の重点目標を決める段階までにできているという状態ではないのか。

小野塚教育総務課長

評価をいつやるのか、教育長からも指摘されている。22年度を評価して23年度の重点目標に結びつけるのが順当なやり方であるが、事業は決算後に評価することになり、年度の目標については評価をする前に立ててしまうので、必ずしも連動しているとはいえない。昨年度の評価はこの懇話会の時点であり、今年度の重点目標の途中だが、この評価に基づいて追加修正すべきものがあれば、目標管理の中間報告の中で付け加えながら進めたい。

小市委員

すべての総合評価はAまたはBとなっており、目標、施策に対する評価が高くてよい。学校現場は、これをどう生かしていくのか。連携はどう考えているか。学校現場でも論議していく余地があるのではないか。

金子委員

評価が目的になってしまうと役立たない。既に23年度の目標ができているのは、評価報告書が役に立たないようで残念である。もう少しPDCAを上手く回して、次年度の目標にこの評価シートを生かす方策はないのか。

小野塚教育総務課長

年度末以降ではなく12月、1月にこのような評価をすれば、その時点での傾向が分かり次年度の目標が立てやすいというのは分かるが、スケジュール、事業全体での評価、全庁的などとりまとめ等の問題もあるので検討していきたい。

小山教育長

次年度どういう取り組みをしていくか。自分たちの重点目標、施策を決めていくのに、今年度の取り組みはどうだったかの自己評価を行わなければならないが、年度末で外部評価を行うのは日程的にきつい。時期的には予算執行が完結し、推移が出たところで外部の

意見を聞くが、大枠の目標は年度によってガラリと変わることはないので、目標実現のための施策を自分たちなりに明確にしていく。

また、学校現場がどう評価しているか。自分たちが自己評価するだけでなく、学校との関係の中で行う必要がある。

例えば、県の事業として今年中学校に35人学級を導入したが、その成果をきちんと示さないと、中学校2年には35人学級は導入されないことになる。また、特別教育支援員や心の教室相談員を配置したが、実際どういうことができ、どういう成果を上げているか知る必要がある。今年小中連携で、算数・数学の講師3人を配置したが、その成果はどうだったか示さないと予算を要求することができない。

今年度の学級編成については、県に申請して県が了解しなければ決めることができなかった。ところが、来年度からは届出制で、市町村が決められ、市町村独自の裁量で学級数を少なくすることができる。その目的は何か。どういう成果で継承していくのか考えなければならない。特別教育支援員や心の教室相談員等、現に配置しているものについても、同じような考え方の中で継承していかなければならない。予算は税金であるので、どう使うか考えなければならない。

西田委員長

参考までに、我々製造業もISOで顧客満足度評価を入れている。ユーザーや納入先からの評価をどう取り入れるか、客観性を持たせなければならない。

自己評価は難しいことだが、継続性は大事であり、より改善された形で続けていただきたい。

全委員 了承

## (2) 平成24年度使用中学校用教科書の採択について

資料2により中村学校教育課長説明

西田委員長

手順が決まっており、この教育委員会で上田市の方針を決定して県教委へ出すことになる。3ページにある研究協議会で推挙してきた内容についての可否を決めるが、意見・質問等はあるか。

金子委員

校長会から推薦される調査研究委員の先生たちの推薦基準はどういうものか。今回の選定結果で、今までと発行者(出版社)が変わったところはあるか。経緯もあれば聞きたい。3に「適当であると認められるため」とあるが、その根拠はどこにあるか。

中村学校教育課長

上小校長会から推薦された先生方は、専科の先生、ベテランの先生が多いとの説明を受けている。前回から教科書の発行者が変わったのは、技術・家庭（技術分野）の1教科だけであり、東京書籍(株)から開隆堂出版(株)に変わった。

選定経過として、第2回目の研究協議会では、教科ごとの全ての教科書を項目別に比較しており、選択した理由や長所について調査研究委員会から報告されている。

城下委員

調査研究委員会は上小校長会で推薦されたベテランの先生とのことだが、メンバーは先生だけと決まっているのか。

中村学校教育課長

まず、上小地区小中学校教科書用図書採択研究協議会という組織があり、これは共同で教科書を採択する地区の教育委員長、教育長、保護者代表ということでPTAが入っている。採択研究協議会は7月と8月の2回開催したが、それとは別の組織として調査研究委員会があり、教科ごとに学校の先生方が専任で調査研究を行い、採択研究協議会に報告を上げて選定を決定している。

城下委員

誰がどんな方法で決めているのか等の情報は、市民や保護者に知らされているのか。

中村学校教育課長

教科書採択においては、最終的には市のホームページ等で情報公開に基づいて公開する。しかし、特定の教科書の採択についての圧力が掛かる可能性があるため、県の教育委員会が報告する9月までは非公表としており、採択が決まってから積極的な情報公開をすることになっている。今現在は、調査するメンバーや対象の業者は非公表である。

全委員 了承

< 報告事項 >

**(1) 学校等における空間放射線量等測定結果**

資料3により中村学校教育課長説明

西田委員長

いたずらに恐怖心を煽るのはよくない。正確な知識と適切な判断が求められる。裏付けになるのは詳細なデータなので、しっかりやっていただきたい。測定の費用はどのくらいか。

中村学校教育課長

千葉の検査センターへ送ると消費税込みで21,000円かかる。東信公害研究所だと9,000円である。

全委員 了承

## (2) 上田ときめきサミット高校生会議の報告

資料5により浅野生涯学習課長説明

城下委員

会議で出された意見は、どこかへ繋がっていくのか。

浅野生涯学習課長

今回は、テーマが「商店街活性化」であり商工課に繋がった。

金子委員

テーマは誰が決めたのか。

浅野生涯学習課長

生涯学習課の職員が決めたものである。

城下委員

丸子では小中高を通して子どもたちを集めた取り組みがあったと思うが、そうした方向は考えられないか。

浅野生涯学習課長

当日は丸子修学館高校の生徒も来たが、小中高一貫で青少年育成のために事業を行うような内容の話も出た。

城下委員

何年後かには、そうした事業もやってみるのはどうか。

浅野生涯学習課長

一事例として話が出た段階である。

全委員 了承

( 3 ) 行事共催等申請状況について

資料 4 - 1 により小野塚教育総務課長説明

意見質疑なし

全委員 了承

資料 4 - 2 により中村学校教育課長説明

意見質疑なし

全委員 了承

資料 4 - 3 により浅野生涯学習課長説明

意見質疑なし

全委員 了承

資料 4 - 4 により土屋文化振興課長説明

意見質疑なし

全委員 了承

資料 4 - 5 により荒井体育施設係長説明

意見質疑なし

全委員 了承

< その他 >

資料 “ マラソン大会・駅伝大会の開催について ” により荒井体育施設係長説明

意見質疑なし

全委員 了承



資料“公民館だより”により足立中央公民館長説明

意見質疑なし

全委員 了承

浅野生涯学習課長

前回委員会において、行事共催等の「信大繊維学部・青少年のための科学の祭典」について、上田市で継続的に行っている事業かとの質問があったが、信大では各学部が事務局持ち回りで開催しているようである。今回は、繊維学部が当番であり上田市で行ったものである。県の支援を受け、補助金を利用して行っている事業である。

西田委員長

閉会